

2014.
OECD 2000. Adsorption-Desorption Using a Batch Equilibrium Method; Guideline for Testing of Chemicals No. 106. Paris.
PPR-Panel 2008. Opinion on a request from EFSA related to the default Q10 value used to describe the temperature effect on transformation rates of pesticides in soil. The EFSA J. 622, 1-32.
食品安全委員会 2013. 農業評価書 フェンチオン (第2版). <http://www.fsc.go.jp/>

fscis/evaluationDocument/show/kya20110117003 (2015年12月22日閲覧).
Singh, B. K. and A. Walker, 2006. A. Microbial degradation of organophosphorus compounds. FEMS Microbiol. Rev. 30, 428-471.
Sørensen, S.R. *et al.*. 2003. Microbial degradation of isoproturon and related phenylurea herbicides in and below agricultural fields. FEMS Microbiol. Ecol. 45, 1-11.

杉山浩ら 1990. ペンディメタリンの土壌中濃度の経時的変動と植物の生育に及ぼす影響. 雑草研究 35 (2), 122-128.
Ten Hulscher, T. E. and G. Cornelissen, 1996. Effect of temperature on sorption equilibrium and sorption kinetics of organic micropollutants-a review. Chemosphere 32, 609-626.
Walker, A. 1987. Evaluation of a simulation model for prediction of herbicide movement and persistence in soil. Weed Res. 27, 143-152.



カタバミ
(酢漿草・片喰)

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

カタバミ科カタバミ属の多年生草本。3枚のハート型の葉が基部のとがったところで合わさり、誰が見ても簡単にわかる。本来3出複葉であるが、どれが頂葉かはわかりにくい。カタバミ属の中にムラサキカタバミやイモカタバミなど多くの種があり、カタバミの中にも変種、品種がある。また、花の美しいものはオキザリスとして園芸店に並ぶ。

通常、春から秋に花を咲かせるというのが兵庫県南部辺りでは一年中咲いている。この花、乾燥と日照を好み、庭の花壇はもちろん、石垣の隙間、道路のアスファルトの間、樋の中、フェンスのちょっとした窪みなどでも、日当たりがよければ、ほんのわずかな土のところでも花を咲かせている。

まばゆい光の中で花を咲かせるが、陰ってきたり陽が

落ちたりするとパタリと花を閉じる。花だけではなく暗くなってくると葉も閉じる。閉じた葉は、ちょうど破れたハートのように半分になる。それを、片方だけ食べられた『片喰』という。その破れたハートに思いを馳せたこんな歌がある。

「逢ふことの酢漿(かたばみ)草も摘まなくに など我が袖のこころ露けき」(古今和歌六帖)

四葉のクローバーを持っていると幸せが訪れるという。しかし、私にはかたばみのハートの方がより幸せな気がするのだが、世間ではこの『片喰』ゆえに見向きされないのだろうか。

かたばみにもハートが4枚の葉がまれに見つかる。見つけたときにはハートが4倍になるのだろうか。それとも『片喰』が4倍になるのだろうか。